

(様式例)

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校

学校番号	119
------	-----

自己評価

学校教育目標	「ひとりだちのできる子」の育成（自立と社会参加の力を育てる） （思いを伝える 自分も仲間も大切にしたい自分を目指す） ・生活自立（基本的な生活習慣の確立・基礎体力の向上・基礎学力の定着） ・社会自立（情緒のコントロール・コミュニケーションスキルの獲得・規範意識や危険回避能力の育成） ・職業自立（自己理解と行動の調整・働くことの意義や役割の理解・職業に対する理解や実際的な知識・技能・態度の習得）
--------	--

評価する領域・分野	「地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	・交流籍交流や学校間交流、地域団体と継続した交流を続けている。そのことで、お互いの理解が深まったり、また深めようと交流の内容を工夫したりする姿がみられた。教員が計画していない自然に関わる姿も多くみられており、継続して直接交流していくことで距離が縮まり理解が深まることを実感した。地域の新しい施設の利用や作業製品を通して地域と連携していくことも進めている。しかし、保護者からは「あてはまらない」との回答や「わからない」との回答があり、伝えきれていない。 ・児童生徒や家庭が直接地域とつながるための工夫が、まだまだ必要だと考える。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・地域の方が、児童生徒の姿を知ったり一緒に活動したりする機会を設定し関わりを深めたり広げたりする。 ・交流籍交流や学校間交流を通じた、地域の児童生徒への周知し理解を図る。 ・地域の催し物を家庭へ周知し、家庭で利用する機会を増やす。
重点目標を達成するための校内組織体制	・今まで行っている地域の方との交流活動の継続（各部） ・新たな団体との交流活動（各部） ・交流籍交流や学校間交流の推進（小中学部） ・地域催し物や施設の保護者への紹介（管理職・担任）
目標の達成に必要な具体的取組	・今まで交流している地域の団体と交流内容について打ち合わせをし、充実を図る。 ・各部の学習内容から、外部の方の協力を得ると良いことについて、新たな団体との交流を設定する。 ・学校との交流では、必ず相手校の担当教員に児童生徒の理解を図るよう打ち合わせをし、できれば相手校の児童生徒へも理解啓発する場を設ける。 ・学校からの連絡アプリでの配信やチラシの配布を積極的に行う。 ・学校で利用した施設について、利用した児童生徒がどのように活動できたかも併せて保護者に伝える。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学校評価アンケートの回答結果 ・参観での意見や感想 ・懇談時の保護者からの意見
取組状況・実践内容等	・小学部や中学部では、地域の団体や学校との交流活動を継続して行っている。継続していることで、相手側から交流内容を工夫する提案がされたり、実際交流する場面で自然な関わりが生まれたりしており、充実していると

	<p>考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元のJAが募集している取組に応募し、新しい活動に取り組むことができた。 ・地域イベントのチラシや児童館で行われる催し物について、チラシの配付や配信による周知を行った。 ・高等部のMSリーダーズの活動や作業製品を通して、地域の中での役割を果たすことに努めた。 ・新しくできた施設を校外学習で積極的に、活用した。
評価の視点	評価
① 地域の方が児童生徒の事を知ったり関わったりする機会を設けることができたか。	Ⓐ B C D
② 児童生徒が地域に出かけ、地域の人々と関わりをもつような活動を設定することができたか。	A B Ⓒ D
③ 交流籍交流や学校間交流での理解啓発や活動内容の工夫は十分だったか。	A Ⓑ C D
④ 保護者や児童生徒が、地域とつながることができるよう働きかけることができたか。	A B Ⓒ D
成果・課題	総合評価
<p>○学校が計画する地域団体や学校との交流に関しては、継続していることで充実している。相手から工夫したいという意欲を示されるようになってきた。また、児童生徒においても相手に対する理解が深まり、自然な関わりができるようになっており、より中身の濃い交流を行うことができています。</p> <p>○直接関わるわけではないが、高等部の活動は、生徒が地域の中で役割を担いそれを果たすという意識をもつきっかけとなり、社会性を育てることにつながると考える。</p> <p>▲児童生徒が居住地で過ごす時間は短い。家庭で地域のイベントに参加したり、施設を利用したりした、という話はほとんど聞くことがない。家庭や児童生徒が直接地域とつながるには、どのような働きかけが必要なのか、地域と連携して考えていきたい。</p>	A B Ⓒ D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている交流活動は、来年度も継続していく。その中で、活動内容については現在のものを継承することを当たり前とせず、相手団体との打ち合わせを密に行い、工夫を重ねていきたい。 ・児童生徒が学校を通さず直接地域と関わるができるために、学校運営協議会の委員から意見を伺い、実践に結び付けていく。 ・地域の方と関われるような校外学習を検討する。 ・保護者のニーズを把握する。

学校関係者評価 (令和 7年10月16日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりは大切だと考えている。情報誌など情報はたくさんあるが、家族で行きたいとはなかなか思えない。地域とのつながりが必要。 ・地域の学校との交流はとても良い。特別支援学校に来て様子を知ってもらえるような機会を作ってほしい。 ・卒業後を見越した関係作りはとても良い。卒業後困っていないか、福祉とつながっているかを確認してほしい。 ・交流はいろんな方としてほしい。お互いの人間力の向上や気付きがある。相手の力にもなる。 ・児童生徒が、地域の中でなくてはならない存在になれるといい。地元の祭りになくてはならないとか、高齢者の生活をサポートできる人になるなど。
--

